

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	多発性硬化症 (MS) において moderate efficacy therapy 中に high efficacy therapy へ移行を要する症例の早期予測に向けた臨床研究
研究責任者	齊藤 喬
研究実施体制	脳神経内科所属の医師
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2027 年 3 月
対象者	2014 年 1 月から 2025 年 3 月までの間に当院で多発性硬化症と診断されて疾患修飾薬を投与された患者さん
研究の意義・目的	moderate efficacy therapy で十分な再発予防効果、進行予防効果が得られ、寛解を維持出来ている症例が存在する一方で、再発と寛解を繰り返し、high efficacy therapy への移行を要する症例もあり、それぞれを早期に予測することで、患者の再発予防に向けた診療に活用できる可能性があります。
研究の方法	2014 年 1 月から 2025 年 3 月までの間に当院で多発性硬化症と診断されて疾患修飾薬を投与された患者さんの診療録を詳細に検討し、moderate efficacy therapy (フマル酸ジメチル; DMF あるいはフィンゴリモド; FTY) 投与で寛解維持が可能だった症例と、経過中に high efficacy therapy へ移行を要した症例を比較し、それぞれの特徴を詳しくします。さらに統計学的手法を用いてそれぞれに関連した因子を後方視的に特定します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 脳神経内科 (氏名) 齊藤 喬 TEL: 053-474-2222 (代表) 脳卒中科外来 9:00~17:00 平日